

報告事項 ク

企画展「鳥取鉄道物語」の開催について

企画展「鳥取鉄道物語」の開催について、別紙のとおり報告します。

平成24年2月9日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

企画展「鳥取鉄道物語 - 山陰線開通100年 - 」の開催について

1	展覧会名	鳥取鉄道物語 - 山陰線開通100年 -
2	会期	平成24年2月11日(土・祝)～3月20日(火・祝) 休館日：2月20日・27日(月)
3	会場	鳥取県立博物館 第1・2特別展示室
4	主催	鳥取県立博物館
5	協賛	日本通運株式会社、株式会社モリックスジャパン、株式会社吉備総合電設、三和商事株式会社、鳥取ビルクリーナー株式会社
6	協力	鉄道サークル「鉄」
7	後援	JR西日本、JR貨物、智頭急行、若桜鉄道及び報道各社
8	観覧料	一般600円(前売団体400円)
9	概要	明治45年(1912)3月1日、山陰線が京都 - 出雲今市(現、出雲市駅)間で開通し、平成24年で開通100年となる。本展覧会では、鉄道を切り口に明治末から現代までの鳥取県内の近代化の歩みを紹介する。

1 展示構成と主な展示資料

(1) 鉄道建設の歩み

山陰本線、倉吉線、因美線、伯備線及び法勝寺電車、岩井軌道など、明治末から昭和初期までの県内の鉄道建設の歩みを紹介する。

【敷設陳情書、古写真、明治期のレール、倉吉駅跨線橋の支柱(明治41年)、開通以前の修学旅行記など】

(2) 鉄道と人々の暮らし

鉄道の開通による社会の変化、鉄道と人々の関わりについて紹介する。

【昭和初期の観光案内、出征や学童集団疎開の写真、森林鉄道関係資料、県内を走った列車や甲子園応援列車のヘッドマークなど】

(3) 映像コーナー

- ・昭和40年代の県内鉄道関係のニュース映像(D51解体映像など)を上映
- ・県民の方々から提供された鉄道写真をスライドショーで紹介

(4) 鉄道模型(Nゲージ)コーナー 展示協力：鉄道サークル「鉄」

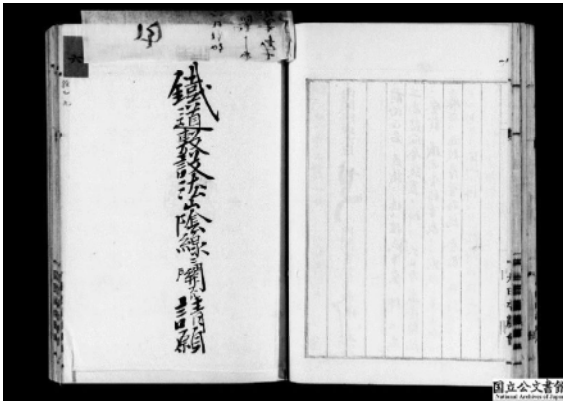
展示室内に「Nゲージ」(幅9ミリのレールで走らせる鉄道模型。NはNineの頭文字)の大型レイアウト(約8×9メートル)を設置し、これまで鳥取県内で運行された車両を走行させる。

展示協力：鉄道サークル「鉄」(鳥取県中部を中心に活動する鉄道ファンの団体)

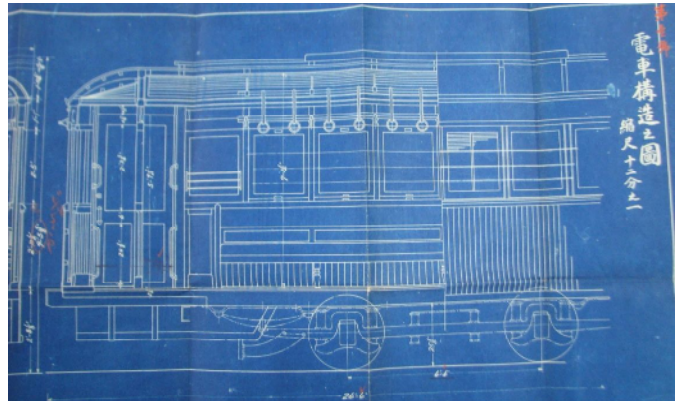
2 関連事業

開催日	名 称	講 師
2月18日(土)	ワークショップ【鳥取鉄道物語】立体絵画に挑戦! 要申込	当館学芸員
3月 4日(日)	講演会「鉄道から見える日本 - 山陰線と鳥取県の近代化 - 」	原武史(明治学院大学教授)
3月10日(日)	ミニ新幹線・SL運行(会場：久松小学校校庭) 天候により中止する場合あり	-
2月11日(土) 2月18日(土) 3月 3日(土)	ギャラリートーク 要観覧料	当館学芸員

参考 主な展示資料



山陰線敷設の請願書 明治28年
(国立公文書館蔵)
山陰線の路線を鳥取 - 兵庫北部とする
ように求める鳥取市民の請願書。



米子電車軌道の車輛図面 大正15年
(国立公文書館蔵)
米子電車は、大正14年から昭和13年まで米子
市内を走った路面電車 県内初公開。



D51 1号機ナンバープレート
(米子市立山陰歴史館保管)
昭和11年建造。昭和40年代に山陰線で使用。
現在、車輛は梅小路蒸気機関車館(京都市)で
保存される。

キハ82 車輛模型 1/20
(鉄道博物館蔵)
昭和30年代末から40年代に、
「まつかぜ」などで使用された車輛。



甲子園応援列車 昭和63年
ヘッドマーク (倉吉東高等学校蔵)
現存する県内7校のヘッドマークを展示。



自動改札機(オムロン社製) 参考画像
県内に設置されていない自動改札を体験。